愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門プロジェクトIII		
担当者(Instructors)	手嶋 慎介	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

『読谷村つながる・ひろがるプロジェクト（その１）』　本科目は、地域ビジネス学科の学びを深めるために、各自の専門（「次世代ビジネスコース」「広告・メディアコース」「観光・サービスコース」「スポーツマネジメントコース」の４コース制）を活かし、「総合的実践実務」科目として演習形式で行われる。　「読谷村」「つながる」「ひろがる」をテーマに、自ら課題を発見し、チーム別で解決案を模索し、中間プレゼンを経て最終プレゼン・企業等の方々から評価を受けるという実践の場が設定される。解決案は、実施計画と方策の立案を中心としたものであるが、方策の実施に伴い予想される新たな課題もプレゼンに含めることや、場合によっては授業外の活動として実習（実施）を行うことも想定されている。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で行う。グループワークやプレゼンテーション等も積極的に取り入れていく。受講者が多数の場合、チーム別で行うことを基本とする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション～プロジェクト型学習のすすめ方	「求められる人材」「必要とされる能力」「これからの社会」「過去のプロジェクト例」～授業のねらいと特色	□
第2回	経営学・地域ビジネスにおける学び	経営学とは、地域ビジネスとは、プロジェクトに必要とされるスキルとは何か	□
第3回	地域ビジネスを考える（1）ー地域ビジネスの視点	地域研究を通した課題明確化の議論～「次世代ビジネスコース」「広告・メディアコース」からのアプローチ	□
第4回	地域ビジネスを考える（2）ー地域ビジネスの実践に向けて	地域研究を通した課題明確化の議論～「観光・サービスコース」「スポーツマネジメントコース」からのアプローチ	□
第5回	本プロジェクトにおける課題の設定	実課題を発見・設定し、役割設定やゴールを決定する	□
第6回	グループ活動（1）：チーム編成	議論・情報収集を行い、チーム編成を行う。	□
第7回	グループ活動（2）：プレゼンテーション作成	チーム別で・情報収集を行い、プレゼンテーションを作成する	□
第8回	グループ活動（3）：リハーサル	プレゼンテーションを仮完成し、中間プレゼンに向けたリハーサルを行う	□
第9回	中間プレゼン	チーム別で、企業等に中間プレゼンを行い、ブラッシュアップのための評価を受ける	□
第10回	グループ活動（4）：リフレクション	企業等からの評価をもとに、再検討する	□
第11回	グループ活動（5）：プレゼンテーション作成	チーム別で・情報収集、必要に応じてフィールドワークを行い、プレゼンテーションを作成する	□
第12回	グループ活動（6）：プレゼンテーション完成	チーム別で・情報収集、必要に応じてフィールドワークを行い、プレゼンテーションを完成する	□
第13回	グループ活動（7）：リハーサル	最終プレゼンに向けたリハーサルを行い、プレゼンテーションを最終完成する	□
第14回	企業等への最終プレゼン・評価	企業等に最終プレゼンを行い、最終評価を受ける	□
第15回	全体のまとめ	全体の振り返り・今後の学びの検討を行い、レポートを作成し発表する	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

各回の内容について、授業前に主だったキーワード（授業内で示す）について2時間程度調べ授業に臨むこと。授業後は、授業前に調べたこ

とと授業で取り組むワークシート等の内容を照らし合わせ自分の考えをまとめ、次回以降のアクションプランを練ること（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

・提出されたレポート等は、添削・採点の上で返却します。 ・プレゼンテーションは、評価表に基づいてフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◇ 2018地域ビジネスDP2	インタビューやプレゼンの実践の場で、責任感をもって取り組み、自ら進んでニーズに対応した行動をとることができる。
	◆ 2018地域ビジネスDP3	インタビューやプレゼンの実践の場で、多様な人と関わりをもって課題解決することを通じて、自らの課題実践力を高める課題を見出すとともに、自らのキャリアや能力開発の方向性を見いだすことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

提出物、ミニレポート

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし（資料等を授業内で配付します）	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	新城 俊昭 著, 東洋企画印刷 編集（2018）『新訂ジュニア版琉球・沖縄史』編集工房東洋企画	
2	上里隆史（2016）『マンガ沖縄・琉球の歴史』河出書房新社	
3	その他、各コースの専門科目の教科書・参考文献	
4		
5		